

第11回柿田川シンポジウム

生態系グループ 研究員 山西 陽子

1. はじめに

柿田川は静岡県清水町のほぼ中心部を南北に流れる、延長 1.2km の狩野川の支川です。富士山の南東の山麓にあり、富士山周辺で降った雨水や雪どけ水が地下水となり、湧き出した湧水を水源とした川です。

柿田川は湧水によって涵養されているため、水質が安定していることが特徴です。一般的な河川と異なり、水温は一年を通して約 15 度で安定しており、表層水の集水面積が小さいことから、出水やそれに伴う攪乱がほとんどありません。また、斜面や上流域からの土砂供給が限定されることから、両河岸の植生が水際まで生育し、湧水の湧き出す「湧き間」以外の河道に水生植物が繁茂するなど、柿田川に特徴的な景観がみられます。



図-1 柿田川の水の中景観
透視度は高く、様々な水生植物が生育しています。

柿田川生態系研究会は、湧水河川「柿田川」について研究を行っている研究者の任意の集まりで、湧水という環境下にある柿田川の成り立ちと生活史、生物群集、生態系の構造と機能を明らかにし、湧水が河川にもたらす影響を湧水河川以外の多様な河川でもより深く理解することを目的に、平成 12 年に発足して以来、研究活動を行っています。

柿田川生態系研究会は、研究活動以外にも「河川環境保全の観点から、今後の柿田川のあり方を生態系の特性を把握していく中から地域の方々の意見を伺いつつ、ともに見出していく」という設立趣旨に基づき、生態学及び河川工学分野の学識経験者、地域住民、行政関係者が自由闊達な意見交換を行う場として、「柿田川シンポジウム」を毎年開催しています。

2. 第 11 回柿田川シンポジウム

柿田川生態系研究会の主催により、平成 26 年 11

月 8 日（土）に、静岡県三島市の三島商工会議所にて第 11 回柿田川シンポジウム「日本の湧水と柿田川」が開催されました。当日は、柿田川の環境保全に取り組んでいる地元の方々や、柿田川の水を利用している住民の方々、行政関係者や研究者など約 70 名の参加がありました。

第 11 回柿田川シンポジウムのプログラムは以下のとおりです。

開会挨拶 柿田川生態系研究会代表
加藤憲二（静岡大学大学院 教授）

■第一部 話題提供
中野 孝教（総合地球環境学研究所 教授）
「水のつながりを見る水質マップ事業」
竹門 康弘（京都大学 防災研究所 准教授）
「河川生態系における湧水の役割と
柿田川の大切さ」
塩井 直彦（リバーフロント研究所 主席研究員）
「水循環基本法の制定など水循環に関する
全国的なとりくみ」

■第二部 ディスカッション

第一部では招聘講演として中野教授より 1 件、柿田川生態系研究会より 2 件の発表がありました。第二部では、話題提供者や柿田川生態系研究会メンバーを中心にディスカッションが行われ、地域の住民の方々からも活発な質問や意見が寄せられました。第 11 回柿田川シンポジウムの内容は、3 月頃にリバーフロント研究所ホームページ (<http://www.rfc.or.jp/>) での公表を予定していますので、参加できなかった方もぜひご覧ください。



図-2 第 11 回柿田川シンポジウム会場の様子

3. おわりに

平成 27 年の秋には、第 12 回柿田川シンポジウムが開催される予定です。今年もたくさんの方々の参加をお待ちしております。詳細は決定次第リバーフロント研究所ホームページでご案内します。